

取扱説明書及び部品表

Takakita

自走コンポキャスQ

SC-211SK



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、**自走コンポキャスト**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または弊社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	8
各部の名称とはたらき	9
運転に必要な装着の取扱い	10
1. エンジンスイッチ	10
2. 散布・攪拌クラッチレバー	10
3. シャッター開閉レバー	10
4. 走行クラッチ	10
5. 散布方向の調整	11
6. 粒状化成肥料やペレットを 散布する場合	11
作 業 方 法	12
1. 作業手順と要点	12
2. 肥料の投入	13
3. 開度の設定	13
4. エンジンの回転速度について	14
5. 散布作業の方法について	14
6. 散布幅について	14
7. 傾斜地に関して	14
8. 移動するときは	15
9. 車輻のトラックへの積込み・降ろし	15
10. トラックでの運搬	15
11. 肥料の混合、攪拌方法について	16
作業前の点検について	18
1. 点検一覧表	18
簡単な手入れと処置	19
1. エンジンの点検・調整	19
2. エンジンのエアクリーナー(重要)	19
3. ベルトカバーの取外し	19
4. 散布フレームのダンプ	20
5. Vベルトの張り点検・調整	20
6. シェアピンの交換	21
7. 注油について	21
8. 肥料について	21
9. 日常の管理について	22
10. 長期格納時の手入れ	22
不 調 診 断	23
付 表	24
1. 主要諸元	24
2. 主な消耗部品	25

！安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある**！**表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

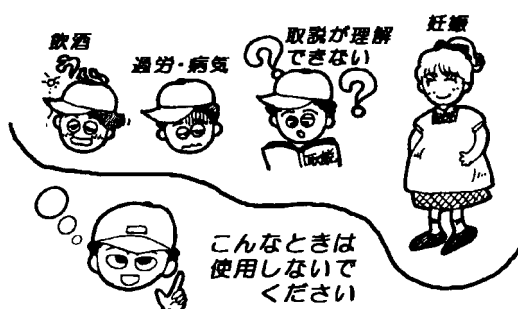
機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

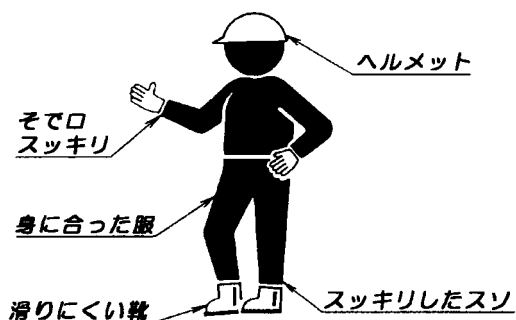
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



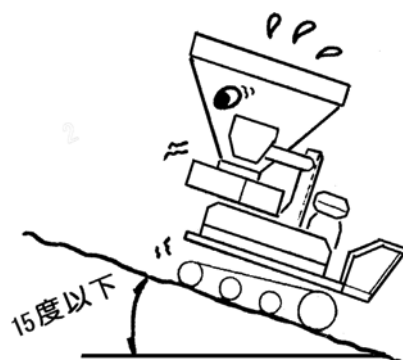
(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 積載量の厳守

本機は、積載量を限定しています。表示以上の積み過ぎは危険です。積載量は平地で200kg、傾斜地作業は最大傾斜15度までとし、そのときの積載量は150kgです。

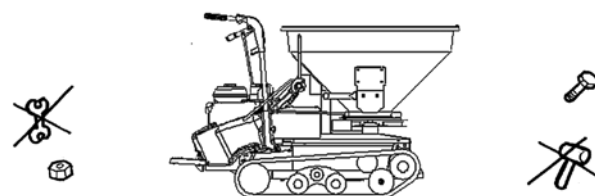


(4) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。

改造ダメ



(5) 使用目的以外への使用禁止

肥料の散布を目的とした機械です。他の目的には使用しないでください。

安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



(7) 同乗禁止

運転者以外の人を乗せないでください。

2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業できるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。

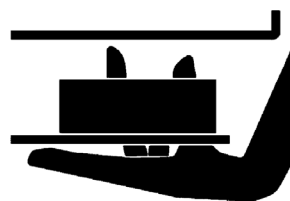


(4) 点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷するおそれがあります。

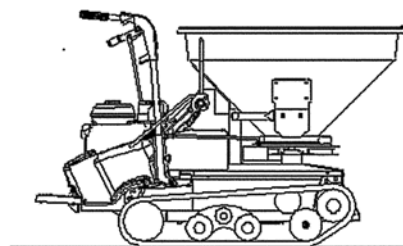
(5) 慣性回転に注意

クラッチを切ってもスピナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。



(6) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやかたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。



エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっているとおもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



！安全に作業するために

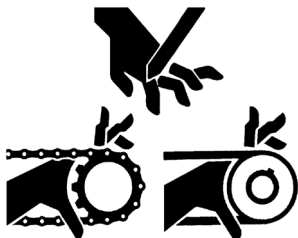
(7) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(8) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



(9) 注油・給油するときは

エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。

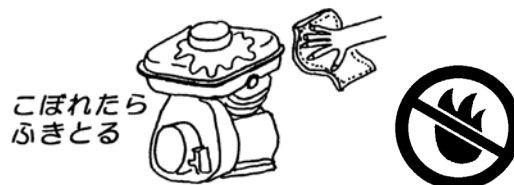
(10) 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こすおそれがあります。



(11) こぼれた燃料はふき取る

燃料補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災事故を起こすおそれがあります。



(12) マフラ・エンジンのゴミは取り除く

作業前にマフラやエンジン周辺に、ワラクズ・ゴミなどが付着していないかを点検し、付着していれば取除いてください。守らないと火災事故を起こすおそれがあります。



(13) エンジンスイッチの動作確認を

エンジンスイッチをOFFにしてエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(14) 散布フレイムをダンプするときは

点検、メンテナメンスのために散布フレイムをダンプするときは、ダンプストッパーの先端をリベットピンに確実にに入れて固定してください。怠ると、散布フレイムが落下して傷害を受けるおそれがあります。

！安全に作業するために

(15) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部は充分注油して、
屋内の平坦な場所に保管してください。



安全確認

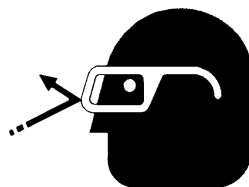


(4) 散布作業するときは

散布作業中は肥料が半径約6mの前方
範囲に飛散します。範囲内に人がいな
いことや障害物がないことを確認して
作業してください。



また、肥料が飛散して目や呼吸器に
入るおそれがありますので、必ず保護
メガネと保護マスクを着用して作業
してください。



保護メガネ着用
保護マスク着用

3. 作業・移動をするときは

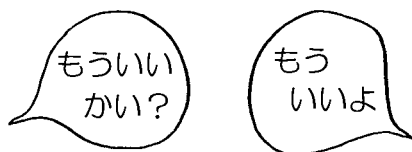
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づかない
ようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに
声を掛け合うなどして、安全を確かめ
合いながら作業してください。



(3) エンジンを始動するときは

必ず散布・攪拌クラッチ、走行クラッ
チが切れていることを確認し、周囲の
人に合図をして安全を確かめてから
始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こすおそれ
があります。

(5) 散布するコンポストの異物は取除く

散布するコンポストには石・木片・鉄片
などの異物を混入させないようにして
ください。機械の故障の原因となる
ばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して
危険です。



！安全に作業するために

(6) 急な発進・停止・旋回・

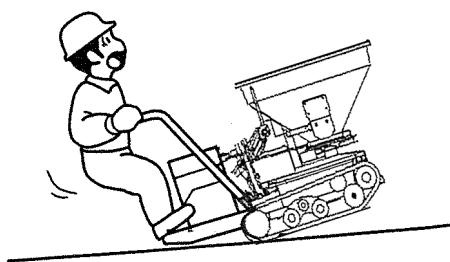
スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多い場所や傾斜地は危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(7) 立ち乗り運転の心得

立ち乗り運転時は運転者が振り落とされたり車輛が転倒したりするおそれがありますので、十分注意してください。また、立ち乗り運転時は6速を使用しないでください。

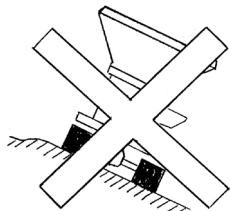


(8) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は必ず等高線に対して直角方向に走行してください。



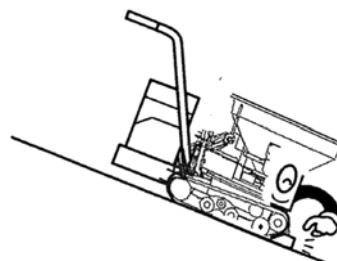
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急旋回はしないでください。

高速で旋回すると、転倒する危険があります。また、傾斜地でステップに乗っての作業は転倒、転落する可能性がありますので行わないでください。



- ③傾斜地では駐車しないでください。

やむなく傾斜地に駐車するときには、車輪止めをしてください。



(9) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



- (10) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停車し、エンジンを停止し、走行クラッチを切ってください。

⚠ 安全に作業するために

(1 1) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを充分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



(1 2) 攪拌、散布作業中は

ホッパー上に手を置く、あるいはホッパー内部に手を入れないでください。アジテータに巻き込まれると傷害を負うおそれがあります。



(1 3) 高温油に注意してください

- ①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。必ず作業前か充分温度が冷えてから行ってください。

- ②火傷やケガを負った場合は、速やかに医療機関を受診してください。

高温のときは
やめて!!



4. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運搬してください。

(2) トラックなどへの積み込み・降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようにエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積み込んだ機械は、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。

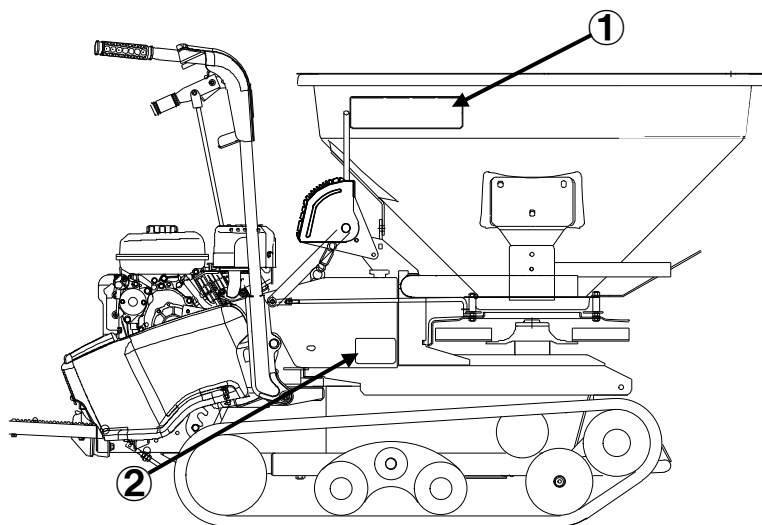


以上、機械の取り扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

！ 安全に作業するために

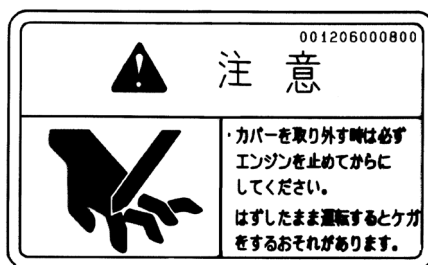
5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001206001930

！ 注意 - 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書をお読みください。 - 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 - エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。 - 作業中は人や動物を近づけないでください。 - 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止し、走行クラッチを切っておいてください。 - 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 - 点検・調整等は必ずエンジンを止めてから実施してください。 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 - 道路走行は、道路交通法を遵守してください。 001206001930	！ 注意 荷重フレームをダンピングするときは、平坦な場所を選び「ホッパ」が完全に地面と接地するまで、ゆっくり開いてください。ホッパ」が安定するまで開かないと、荷重フレームが落下して傷害をうける恐れがあります。	！ 警告 回転中のアジテータに触れると傷害をうけます。エンジンを切り、アジテータが完全に停止するまで触れないでください。 ！ 警告 回転中のスピナーに触れると傷害をうけます。エンジンを切り、スピナーが完全に停止するまで触れないでください。	！ 警告 運転中は後方には、近づかないでください。後方から傷害をうける恐れがあります。 ！ 警告 6速での高速走行時や傾斜地、凸凹の不整地ではステップに足をついて、走行はしないでください。転倒、転落の恐れがあります。	注油箇所 コームのロケットを外して内側のローラーチェーンに8時間毎に注油してください。
---	---	---	--	--

②部品コード 001206000800



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにしておいて傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながらかいてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、粒状・砂状の肥料の散布作業にご使用ください。

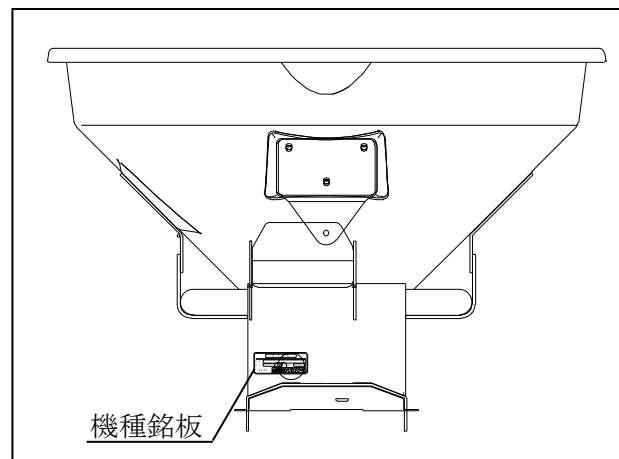
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A (農協)、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

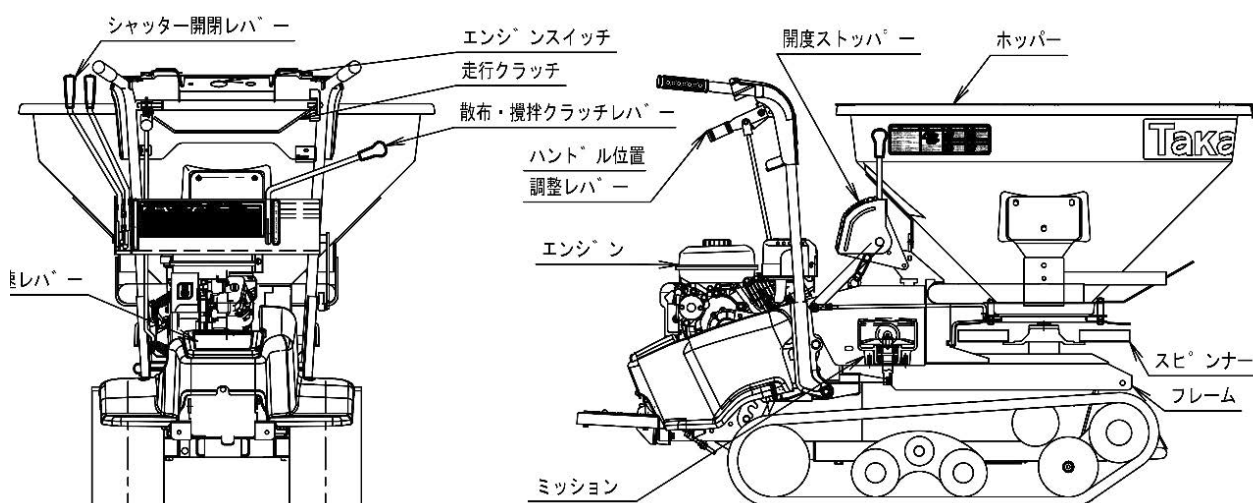
- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	自走コンポキャスト
型 式	S C - 2 1 1 S K
機 体 No. (S E R - N o.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき

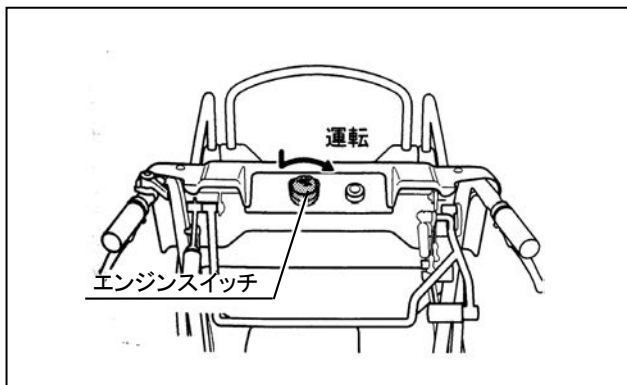


名 称	は た ら き
ホッパー	肥料を投入するジョウゴ形の器です。
フレーム	全体の構成部を保持します。
シャッター開閉レバー	肥料散布シャッターの開閉および散布量を調整するハンドルです。
開度ストッパー	シャッターレバーを適正な位置で停止させます。
ハンドル位置調整レバー	ハンドル位置を3段階に調整できます。
スピナー	肥料を飛散させる回転円板です。
走行クラッチ	機体の移動・停止を行うクラッチです。
エンジン	動力源・燃料はレギュラーガソリンを使用します。
エンジンスイッチ	エンジン始動、緊急停止を行うスイッチです。
散布・攪拌クラッチレバー	散布部への動力を「入」・「切」するためのレバーです。
ミッション	エンジン動力を散布部へ伝えます。
変速レバー	機体の走行速度を前進6段階、後進2段階に変速します。

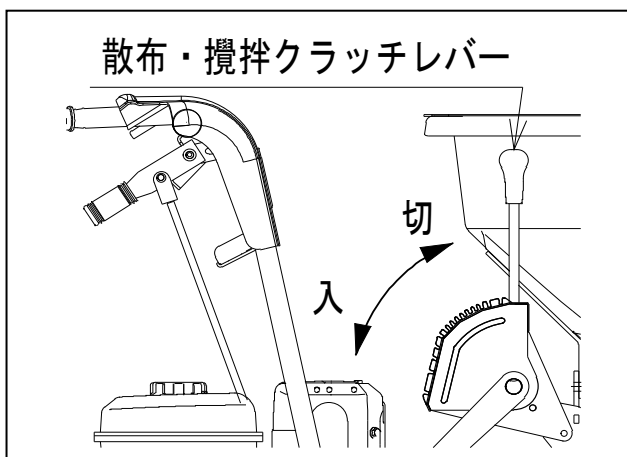
運転に必要な装置の取扱い

1. エンジンスイッチ

エンジンの始動時は、エンジンスイッチを押して回し、「ON」にして、スターターノブを引いてください。また、エンジンを停止する場合は、エンジンスイッチを押して「OFF」にしてください。



2. 散布・攪拌クラッチレバー



散布・攪拌クラッチレバーを「入」の方向にするとクラッチがつながり、散布部のスピナーおよびアジテータが回転します。

警告

- 散布・攪拌クラッチレバーを「入」にするときは、周囲に人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- エンジン始動時は、突然スピナーが動き出さないよう、散布・攪拌クラッチは必ず「切」にしてください。

3. シャッター開閉レバー

シャッター開閉レバーにより、散布の開始・停止を行います。

シャッター開閉レバーを下に倒すとシャッターが開き、散布を開始します。

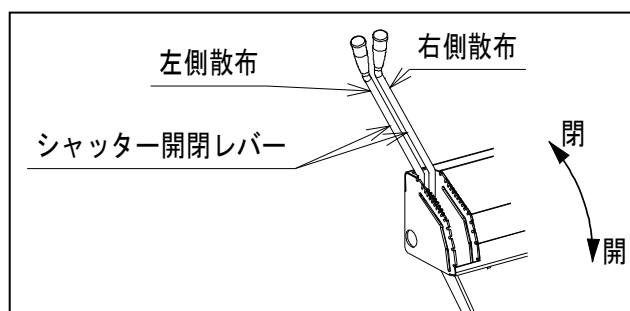
元に戻すと、散布シャッターを閉じ、スピナーが回転していても肥料の散布は停止しています。

右側のレバーを倒すと右側散布が、左側のレバーを倒すと左側散布を行います。

両面散布時は、両方のレバーを同時に倒してください。

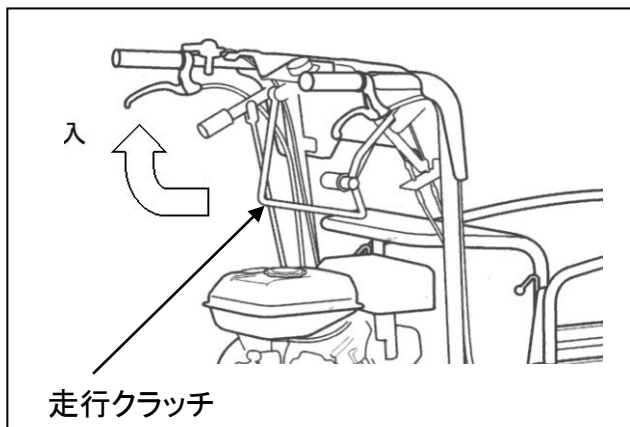
また、シャッター開閉レバーにより散布量の調整も行えます。

シャッター開閉レバーを下に倒すほど繰り出し量が増えます。(散布量の調整はP13～14を参照してください。)



4. 走行クラッチ

走行クラッチを「入」の方向にすると、クラッチがつながり走行します。



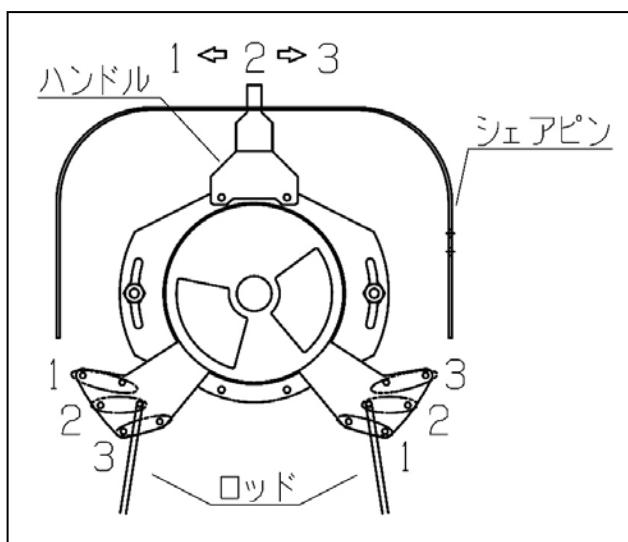
運転に必要な装置の取扱い

5. 散布方向の調整

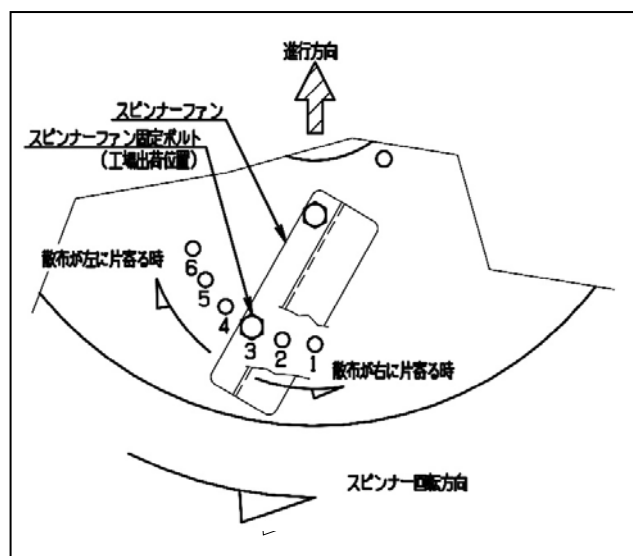
肥料の種類や比重の違いにより、散布肥料の分布中心が片寄ることがあります。

- 散布が左右に片寄る場合は、ハンドルを左右に動かすことにより、散布の片寄りを調整することができます。
- ハンドルで散布の片寄りを調整する場合は、各調節ボルト(ロッド)のアールピンを外し、取り付け穴の位置を下表に合わせて入れ替えてください。

散布の片寄り	ハンドル	ロッド
左側を増やす	1	1
初期位置	2	2
右側を増やす	3	3



- ハンドルを調整しても片寄りが修正できない場合は、スピナーファンの位置を組み替えてください。
- 出荷時は含水率40%程度のコンポストに合わせた位置3にスピナーファンを固定しています。
- 散布が右に寄る場合(主に低水分コンポスト)は1～2の穴、左に寄る場合(主に高水分コンポスト)は、4～6の穴に組み替えてください。
- 粒状肥料の場合は、2～4の穴を使用してください。

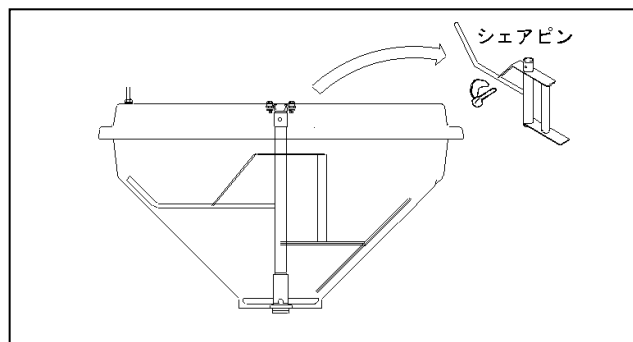


警告

- スピナーファンを調整する時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 必ず軍手等の保護具をつけてから調整作業を行ってください。
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

6. 粒状化成肥料やペレットを散布する場合

粒状化成肥料やペレットを単肥で散布する場合は、攪拌アジテータを回すと肥料が潰れる可能性があるため、基本的にはシェアピンを取り外して作業してください。

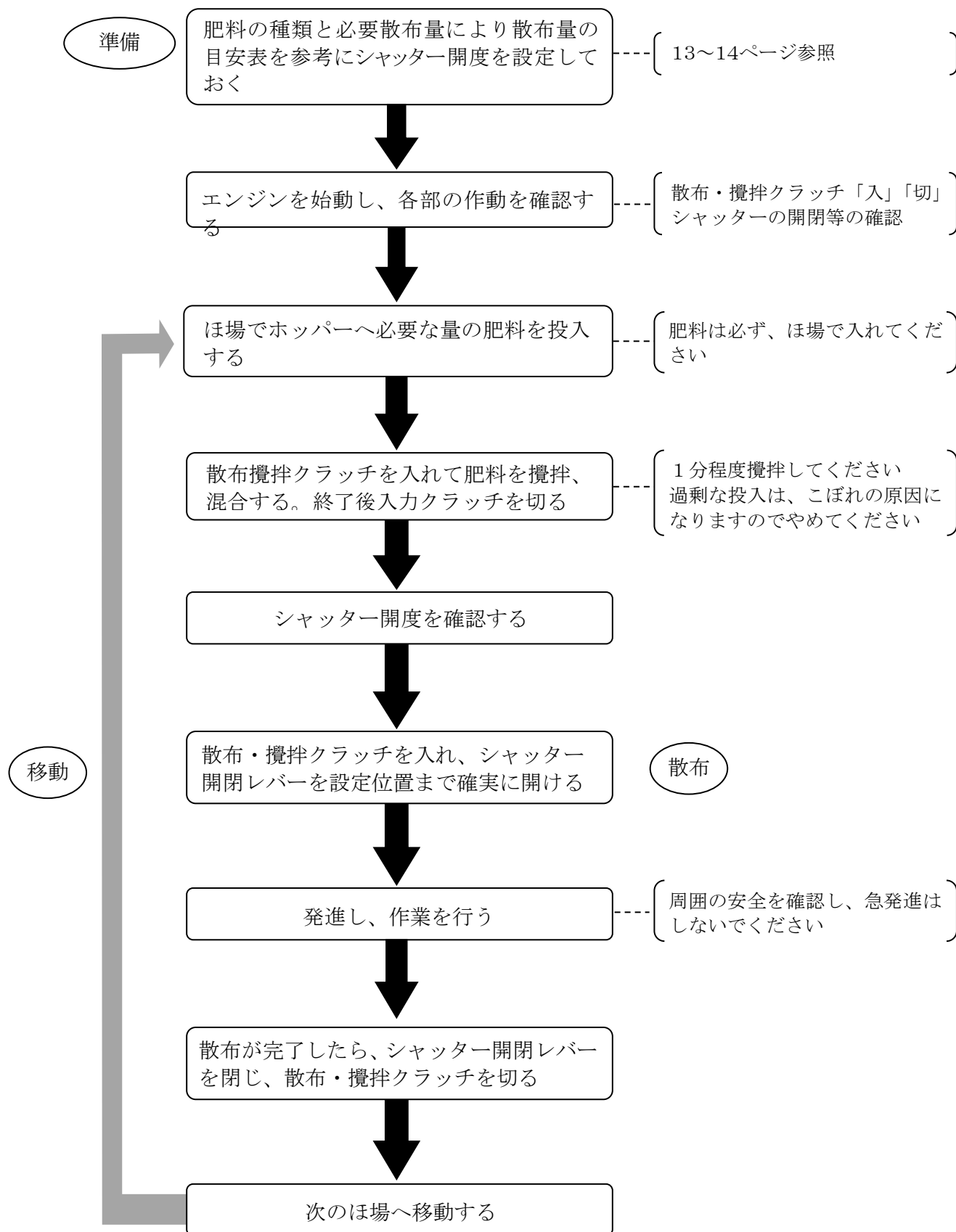


注意

散布作業に入る前には後方に人や動物がいらないことを確認してください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 肥料の投入

警告

本機の積載量は200kg(最大200kg)です。規定以上の積み込みを行うと機械が破損するだけでなく、安全な走行作業ができなくなるおそれがありますので、十分に注意してください。

- ① 車輻を水平な場所に移動し、エンジンを停止して走行クラッチを切ってから肥料を投入してください。

- ② 肥料は散布に必要な適正量のみホッパーに投入してください。不要量の肥料は、後作業にムダを発生させます。

注意

肥料は、あらかじめ散布ほ場へトラック等で運んでおいてから必ず散布の直前にホッパーへ投入してください。

ホッパー内に肥料を入れたまま運搬すると、運送中に肥料がホッパー内で圧縮されるため、ブリッジ現象による繰り出し不良や散布ムラの原因となります。

3. 開度の設定

- ① 散布量は、開度スリッパレバーの開度位置により調整します。

シャッターレバーの目盛は0から14までありますが、1の位置から徐々に開きはじめ、14の位置で全開となります。

散布量の目安 (kg/10a)

(例)袋詰めコンポストの場合、シャッター開度7、車速5速で作業すると10a当り200kg散布できます。

リンク先位置



通常散布

リンク先位置



少量散布

リンク先位置



袋詰めコンポスト

有効散布幅 3m

1速	2速	3速	4速	5速	車速 開度	1速	2速	3速	4速	5速	車速 開度	1速	2速	3速	4速	5速
0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h		0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h		0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
90	50	30	20	13	1	30	18	11	8	5	7	1350	770	450	340	200
—	120	70	50	30	2	80	45	25	20	12	8	1760	1010	590	440	260
—	170	100	75	45	3	130	75	45	30	20	9	2000	1140	670	500	300
—	—	140	110	60	4	—	140	80	60	35	10	—	2090	1220	920	540
—	—	210	160	90	5	—	—	100	75	45	11	—	2330	1360	1020	600
—	—	—	180	110	6	—	—	130	95	55	12	—	—	1650	1240	740
—	—	—	—	135	7	—	—	170	130	75	13	—	—	2030	1530	900
—	—	—	—	210	8	—	—	—	170	100	14	—	—	2430	1830	1080

001208002040

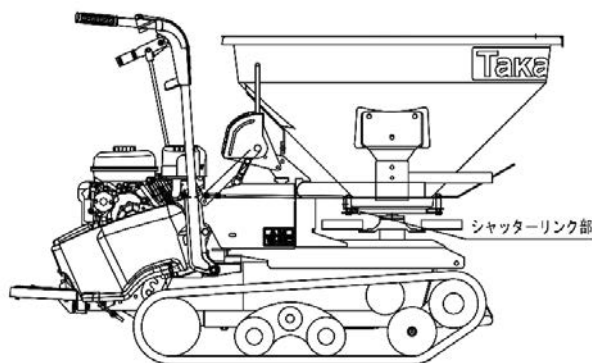
※表は、おおよその目安としてご利用ください。

001208002040

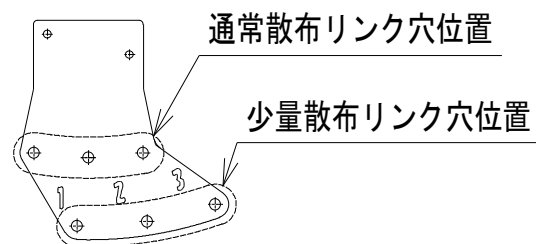
※表は、おおよその目安としてご利用ください。

- ② 少量散布を行いたい場合は、リンク穴位置を少量散布用穴位置に変更してください。

変更する際は、シャッター開閉レバーを少し開けた状態でシャッターリンク部のリンク穴位置を少量散布側の穴位置に付け替えてください。(その際ホッパー内は空にしておいてください。) 少量散布から通常散布に戻す場合も同様にしてください。



シャッターリンク部



作業方法

◆シャッター開度位置の選定

散布量は前ページの表を参考に、開度ストッパーレバーで開度位置を設定してください。

《例》

粒状肥料を10アール当り100kg散布したい場合、表中の100kgに近い数値を探すと次のような例となります。

3速 開度3→100kg

4速 開度4→110kg

5速 開度6→110kg

ほ場条件・作業条件に適した組合せを選定してください。

注意

目安表の数値は参考値としてお考えください。実際には肥料の種類、散布条件、ほ場条件により差異が生じる場合があります。

最初に使用するときは、目標散布量の半分に設定して、2度播きされることをおすすめします。

◆シャッター開度ストッパー位置の変更

シャッター開度の設定後、シャッター開度ストッパーレバーを上へ引き、設定開度位置まで移動させて、レバーを固定してください。

4. エンジンの回転速度について

エンジン回転速度を上げるほど、肥料の散布距離は長くなりますが、逆にアジテータによる肥料の破碎が多く発生ようになります。

エンジンの回転速度は肥料の散布距離および破碎状態を見ながら調整してください。

5. 散布作業の方法について

◆作業手順について

- ①散布・攪拌クラッチを入れ、シャッター開閉レバーを設定開度位置まで確実に倒してください。
- ②肥料が本機前方に散布されることが確認できたら、走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

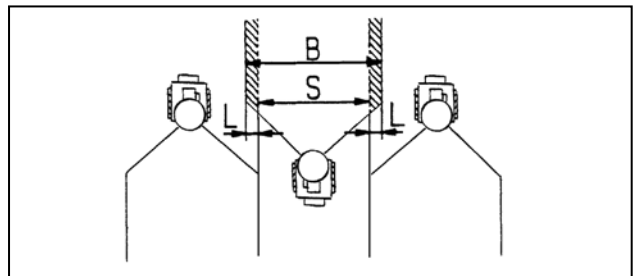
！ 注意

散布作業に入る前には、側方および前方に人や動物がいないことを確認してください。

6. 散布幅について

- 散布幅は肥料の大きさ、スピナーの回転速度、風などに影響されます。一般的には、肥料の粒子が大きい場合はスピナーの回転速度が速いほど散布幅が広がります。
- 肥料の種類によっても散布幅が変わります。その種類や特性により散布幅に適切な重複が必要です。

	粒 状	袋詰めコンポスト
S:有効散布幅	6～10m	2.5～3.5m
L:重 複 幅	1～2m	1～2m
B:最大散布幅	8～10m	3～5.5m



7. 傾斜地に関して

等高線に対して直角方向に走行し、旋回時は速度を落とし、急旋回をしないでください。

作業方法

！警告

等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので、決して行わないでください。

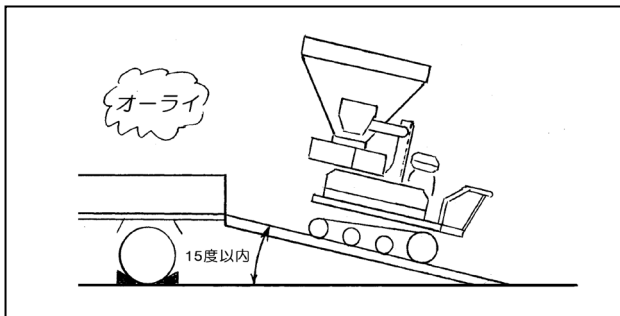
8. 移動するときは

公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。

9. 車両のトラックへの積み込み・降ろし

トラックへの積み込み・降ろしは、次の要領で行ってください。

思わぬ事故につながるおそれがありますので積み込み、降ろしとも十分に注意してください。



！警告

- 積み込み・降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実に掛けてください。
- 機械が不意に動いたときに危険ですので絶対に立たないでください。
- アユミ板の上でサイドクラッチを操作して、進路変更を絶対に行わないでください。
クローラがアユミ板から外れて転倒するおそれがあります。

- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。
特に、スピードの速い時には、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ①トラックへの積み込み・降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立合いのもとで行ってください。
- ②積み込み・降ろしに使用するアユミ板は滑り止めがあり、車両の重量に充分耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実に掛けて、はずれないことを確認してから車両の積み降ろしを行ってください。
- ④積み込み時の速度は、最低速度で安全運転をしながら行ってください。
- ⑤トラックへの積み込みは、必ず前進走行で行ってください。

10. トラックでの運搬

！警告

丈夫なロープを車両に掛け、確実に固定してください。
守らないと、急ブレーキをかけた時などに荷台から車両が転落するおそれがあります。

車両を運搬する時は、車両重量以上の積載量があり、十分な広さを有するトラックを使用し、運転時には、坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

作業方法

11. 肥料の混合・攪拌方法について

◆散布する前にホッパー内で混合・攪拌する場合の手順

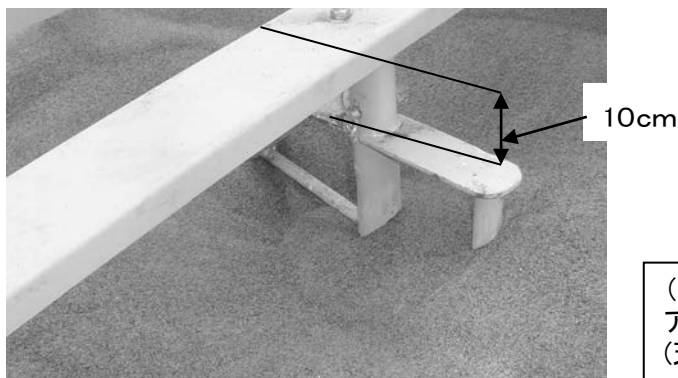
- ①シャッターを閉じてください。
- ②肥料の比重の軽い順にホッパー内へ投入してください。
- ③全種全量投入後、散布・攪拌クラッチを入れ、アジテータを回転させて肥料を混合攪拌し、十分に混合できたら散布してください。

⚠ 危険

- ①肥料をホッパー内へ投入するときは、散布・攪拌クラッチを切り、アジテータ、スピナー等、各部の作動停止を確認してから投入してください。
- ②肥料には混合の適否があります。必ず、次頁表を参考にして安全性を確認してから混合してください。
- ③混合の可否が不明な肥料については、必ず肥料メーカーにご相談ください。

注意

- ①尿素は空気中の水分を吸収し、他の混合物を硬化させる性質があります。混合は避け、尿素単肥として散布してください。同様に古く湿った肥料は避けてください
- ②堆肥、鶏糞等、比重の軽い肥料の攪拌・混合時には、上部より肥料がこぼれる場合があります。袋入り堆肥でホッパー上部より10cm程度、粒状肥料で上端より3cm程度を目安に投入してください。上端まで投入する場合は、エンジン回転数を調整していただくか、比重の重い肥料を上側に投入することでこぼれを抑制できます。
- ③生石灰は水と反応し、可燃物を発火させるほどの熱を発生することがあります。水との接触は避けてください。



(参考位置)
アジテータ上端
(天板より10cmの位置)

作業方法

	硫塩硝尿石 灰チッソ	過熔苦重 土焼 リ過リ	硫塩草 酸化木 カカ	魚骨鶏堆緑 肥・油カ ス粉ン肥肥	生消炭硫水炭ケ 石石カ酸酸酸イ 灰灰ル土土土ル
硫塩硝尿石 灰チッソ	安安安素ソ ▲▲○× ▲▲▲× ▲▲▲× ○▲▲▲ ×××▲	○×○○ ▲×▲○ ▲×▲▲ ▲○▲○ ×○×▲	○○× ▲▲× ▲▲× ▲▲▲ ▲▲○	○○▲▲▲ ○○▲▲▲ ×▲××× ▲○▲▲▲ ○○○▲○	××▲○××× ××▲▲××× ××▲▲××× ▲▲▲▲▲ ○○○×○○○
過熔苦重 土焼 リ過リ	石ン石ン ○▲▲▲× ×××○○ ○▲▲▲× ○○▲○▲	▲○○○ ▲×○ ○×○ ○○○ ○○○	○▲× ○○○ ○▲× ○○○ ○○○	○○○○○ ○○▲▲○ ○○○○○ ○○○○○ ○○○○○	××▲○××× ▲○○○○○○ ××▲○××× ▲▲▲○▲▲▲
硫酸カ 化カ 草木	リリ灰 ○▲▲▲▲ ○▲▲▲▲ ×××▲○	○○○○○ ▲○▲○ ×○×○	○○○ ○○○ ○○○	○○○○○ ○○○○○ ○○▲▲○	▲○○○○○○ ▲○○○○○○ ○○○○○○○
魚肥・油カ 骨粉ン 鶏フン 堆きゅう肥 緑肥	ス粉ン肥肥 ○○×▲○ ○○▲○○ ▲▲×▲○ ▲▲×▲○	○○○○○ ○○○○○ ○▲○○○ ○○○○○	○○○○○ ○○○○○ ○○○▲ ○○○▲	○○○○○ ○○○○○ ○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○ ▲○○○○○○ ×▲○○○▲▲ ××▲○××× ○○○○○○○
生消炭硫水炭ケ 石石カ酸酸酸イ 灰灰ル土土土ル	×××▲○ ×××▲○ ▲▲▲▲○ ○▲▲▲× ×××▲○ ×××▲○ ×××▲○	×▲×▲ ×○×▲ ▲○▲▲ ○○○○○ ×○×▲ ×○×▲ ×○×▲	▲▲○ ○▲○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	○▲××○ ○○▲×○ ○○○▲○ ○○○○○ ○○▲×○ ○○▲×○ ○○▲×○	○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○ ○○○○○○○

《記号の見方》

○印：混合しても良いもの

▲印：混合したらすぐに散布すべき
もの

×印：混合してはならないもの

『肥料便覧より』

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目	内 容	参照 ページ	チェック
前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
エンジンオイル	オイル量と汚れ、油漏れ 補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初 回:25時間 2回目以降:50時間毎 推奨 API分類 SE級以上 SAE分類 10W-30または10W-40 容量 0. 5ℓ	エンジン 取扱 説明書	
エンジンの燃料	燃料の量と漏れ	エンジン 取扱 説明書	
エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ(重要)	19	
トランスミッションオイル	オイル量と汚れ、油漏れ 交換 初 回:50時間 2回目以降:500時間毎 推奨 API分類 GL4または5 SAE分類 #80 容量 1. 4ℓ	台車 取扱 説明書	
散布・攪拌クラッチレバー	エンジンを始動し、散布部の「入」「切」を確認	10	
アジテータ・スピナーファン	摩耗していないか	—	
各部の回転	アジテータ・スピナーの回転はスムーズか	—	
シャッター開閉レバーの作動	スムーズにかつ開閉が確実か	10	

簡単な手入れと処置

！ 警告

- ①各部の調整をするときは、エンジンを停止して回転部が完全に止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は必ず取り付けてください。

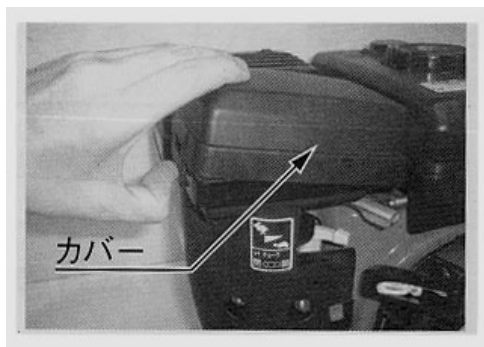
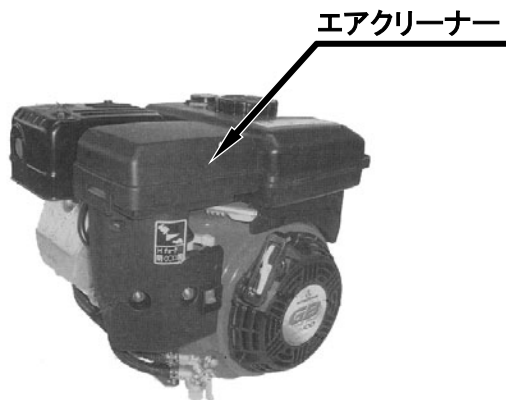
1. エンジンの点検・調整

※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常点検・整備は万全に行ってください。

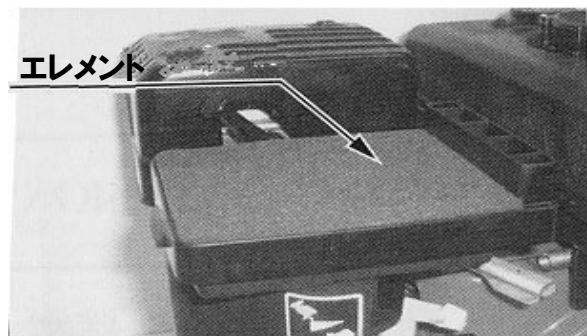
2. エンジンのエアクリーナー（重要）

本機はホコリの多い環境で使用するため、エアクリーナーの点検・清掃が大変重要となります。次記に従い、作業前には点検・清掃を行ってください。

守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。



エレメント



※エレメントの点検・整備

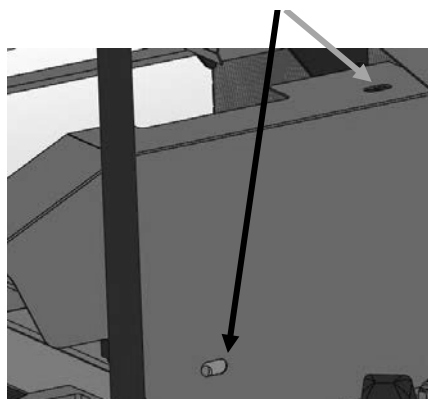
- ①カバーをはずし、エレメントを点検してください。
 - ②エレメントの汚れがひどいときは、白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し、片手で軽く絞ってください。
 - ③点検後はカバーを確実に組付けてください。
- ◆また、堆肥や塵の多い作業時には、付属のクリーナカバーでエアクリーナーを覆ってください。

3. ベルトカバーの取外し

チェン、走行ベルトの点検時には、散布フレームのダンプが可能です。散布フレームのダンプには、まず、以下の手順に従い、ベルトカバーを取り外してください。

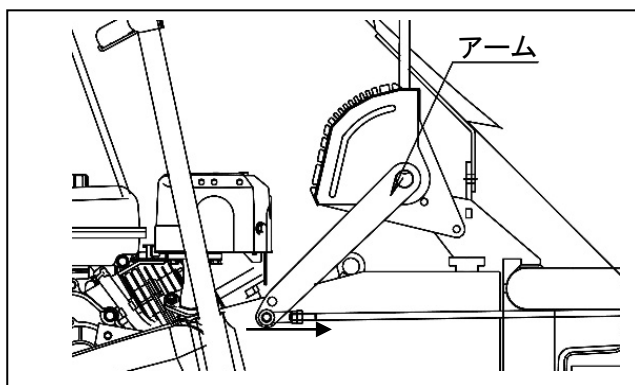
- ①ベルトカバーのノブボルト2本を外します。

ノブボルト



簡単な手入れと処置

- ②カバーを引き抜きやすくするために、開度を最大にして、左側散布レバーを全開にします。(次図のアームが前側へ移動します)



- ③台車のハンドル位置を下段にします。
④ベルトカバーを引き抜きます。

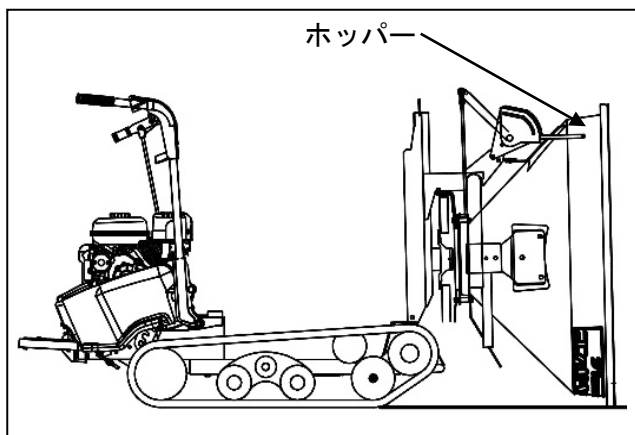
4. 散布フレームのダンプ

本体をダンプする際には、項3の手順でベルトカバーを取り外した後、以下の手順で行ってください。

- ①エンジンプーリと散布クラッチをつなぐVベルトを取り外します。

②本体フレーム固定用のリンチピンを抜いた状態で、ホッパーを持ち上げます。

③地面と接地するまで、ゆっくり倒してください。ホッパーが安定するまで倒してください。

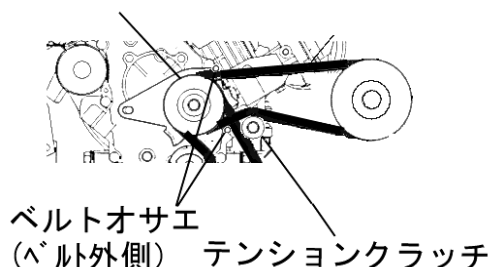


警告

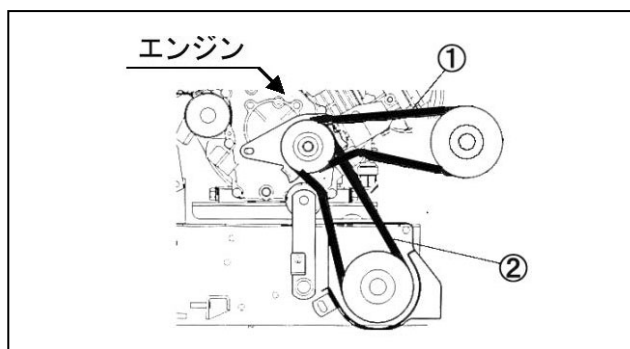
本体ダンプの際には、必ずホッパーが安定するまで倒してください。
怠ると、本体フレームが落下した際に、**傷害を受けるおそれがあります。**

- ①取り外したカバー、リンチピンは使用前に必ず取り付けてください。
②Vベルト取り付けの際は、ベルト、テンシンプーリ、ベルトオサエの位置関係が、以下の図の通りとなっていることを確認してください。

エンジンプーリ



5. Vベルトの張り点検・調整



Vベルトの点検は次頁表に従い行ってください。Vベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。

◆調整方法

緩んでいる場合は、エンジン取付けボルトを緩め、エンジンを後方へ移動させてベルトを張ってください。

簡単な手入れと処置

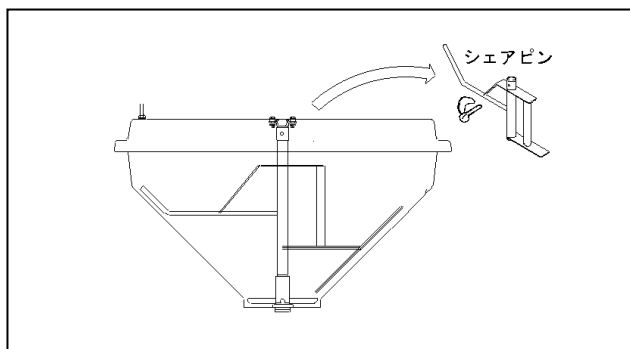
ベルト中央部を指で押し、10～15mmのたわみとなるようにしてください。

場所	ベルトサイズ	本数	点検方法
①	LB-42	1	テンションクラッチとなっております。散布・カクハンクラッチを「入」にしたとき回転が伝わり、「切」にしたとき切れることを確認してください。
②	LB-28	1	テンションクラッチとなっております。走行クラッチを「入」にしたとき回転が伝わり、「切」にしたとき切れることを確認してください。

6. シェアピンの交換

◆本機にはコンポスト用アジテータに急激な過負荷が作用した場合、本機の損傷を防ぐための安全装置として、シェアピンを次図の位置に装備しています。

過負荷が作用したとき、このシェアピンがせん断され、本機主要部の損傷を防止します。



◆シェアピンの部品コード

シェアピン 11635-1892-000 — 1ヶ

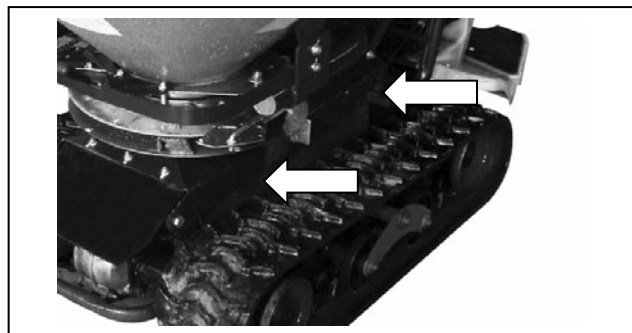
！ 注意

- シェアピンの交換は必ずエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。
- シェアピンは、指定のもの以外は絶対に使用しないでください。

7. 注油について

作業前には、以下の手順で駆動チェーンに注油を行ってください。

①注油口のグロメット(2箇所)を取り外します。



②散布・攪拌クラッチが「切」になっていることを確認し、スピナーを手で回転させながら注油口より注油してください。

！ 警告

- ①注油時は、必ずエンジンが停止した状態で行ってください。またスピナー操作時は軍手等、保護具着用のうえで行ってください。**守らないと傷害を受けるおそれがあります。**
- ②注油終了後は必ずグロメットを取り付けてください。取り付けずに使用するとチェーンの錆、腐食の発生のおそれがあります。

8. 肥料について

- 肥料は湿気が少なく、乾燥後粒度が均一で、塊や異物の混じっていないものを使用してください。
- 湿った肥料やビニール片等の混入した肥料は、散布ムラの原因となりますので使用しないでください。

注意

湿った肥料は、ホッパー内でブリッジ現象や詰まりを起こしやすく、またビニール片等はアジテータに巻き付いたりして不均一散布の原因になります。

簡単な手入れと処置

警告

残った肥料の取り出しや掃除をするときは、入力クラッチを切りエンジンを完全に停止してから行ってください。

9. 日常の管理について

- シャッター部に水分が付着していると、肥料の繰り出しが悪くなります。
水分や付着物を乾いた布で拭き取ってから使用してください。
- スピナーファンに肥料が付着していると散布性能が変化します。いつもきれいにしておいてください。
- 使用後は、ホッパー内に肥料を残したまま放置しないでください。肥料が固まって故障の原因となります。
- 作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。
- 雨中での作業ならびに屋外での保管は避けてください。
守らないと、散布する肥料により、エンジンキャブレターの不調をきたす場合があります。
- やむを得ず、降雨中に作業した場合は、作業終了後、エンジンが冷えてからエンジンキャブレターまわりを必ず水洗いするようにしてください。

10. 長期格納時の手入れ

長期にわたってご使用にならない時は、次のことを行い、保管してください。

- 水洗いをして、付着した肥料やホコリなどを落とし、異物を取り除いてください。
- ☆苛性カリを含んだ肥料を散布した後は、特に念入りに水洗いを行ってください。
- ☆高圧洗浄機を使用する際はラベルを避けて洗車してください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料等を塗って錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は、平坦なところで保管してください。

重要

エンジンの燃料タンクからガソリンを完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残ったガソリンは、エンジンを始動し使い切ってください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ペ ー ジ
●散布跡に濃淡がある	●散布幅に対し、重複散布をしていない	●有効散布幅に対し、適切な重複散布幅を設ける	14
●散布方向が片寄る	●散布中心と走行中心が一致しない	●スピナーファンの角度調整 ●ハンドルの調整	11 11
●散布量が安定しない	●アジテータ・シャッター開口部に異物が絡まっている ●ホッパー内で湿った肥料が詰まっている	●エンジンを停止して異物の除去 ●乾燥した肥料に入れ替える	— 16-17
●散布量が少ない	●上記項に同じ ●シャッターの開口穴より、肥料の粒径の方が大きい (少量散布の時) ●ベルトがスリップする	●上記項に同じ ●シャッター開度を大きくして作業速度を速くする ●ベルトの張りを調整する	— 13-14 20-21
●散布幅が狭い	●スピナーファンが摩耗している ●エンジン回転速度が出ていない ●ベルトがスリップしている	●新しい部品と交換 ●エンジン回転速度を上げる ●ベルトの張りを調整する	11 — 20-21
●エンジンが始動しない	●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている ●エンジンスイッチが「OFF」になっている。	●ガソリンを補給する ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく拭き乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する ●エンジンスイッチを「ON」にする	エンジン 取説 説明書 〃 〃 〃 10
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナーの目詰まり	●エレメントを清掃する	19 及び エンジン 取説 説明書
●シェアピンが切れる	●粒状肥料、砂状肥料に対して、コンポスト用のアジテータを駆動している ●コンポストに異物が混入している ●混合散布時	●シェアピンを外す ●異物を取り除く ●投入量を減らす	21 — —

付 表

1. 主要諸元

品 名		自走コンポキャスト		
型 式		SC－211SK		
機体寸法※	全 長 (mm)	1690～1810		
	全 幅 (mm)	1040		
	全 高 (mm)	1060～1140		
ホ ッ パ ー 地 上 高 (mm)		1000		
質 量 (kg)		236		
散布部	ホッパー容量 (ℓ)	200		
	散布方式	スピナー方式		
	スピナー回転速度 (min ⁻¹ {rpm})	509		
	アジテータ回転速度 (min ⁻¹ {rpm})	50		
ゴムクローラ 寸法	クローラ幅 (mm)	180		
	中心距離 (mm)	495		
	接地長 (mm)	740		
接地圧	空車時 (kPa{kg/cm ² })	9. 1{0. 09}		
	積載時(200kg)(kPa{kg/cm ² })	16. 2{0. 16}		
旋回方式		爪ブレーキ式		
速度	F1～F6 (km/h)	F1－0. 4	F2－0. 7	F3－1. 2
		F4－1. 6	F5－2. 7	F6－4. 4
	R1～R2 (km/h)	R1－0. 6	R2－2. 1	
エンジン (kW{PS})		OHV ガソリンエンジン 最大3. 0{4. 2} 定格2. 3{3. 1}		
有効散布幅 (m)		粒状	6～10	
		砂状	4～5	
		粉状	2. 5～3. 5	
		有機	2. 5～3. 5	
作業能率 (分/10a)		化成	4～34	
		有機	7～90	
散布方向		全面、左右片面		
対応肥料		粒状、ペレット状、配合、砂状、 粉状、有機肥料(含水率45%未満)		

この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※機体寸法はハンドル可変のため、3段階で変化します。

付 表

2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部品コード	数量	備考
Vベルト(エンジン→散布ミッション)	03610 3120 420	1	LB-42
Vベルト(エンジン→中間軸)	03610 3120 280	1	LB-28
Vベルト(中間軸→走行ミッション)	03610 3120 630	1	LB-63
スピナーファン	37105 3313 000	3	
シェアピン 10	11635 1892 000	1	